

徹底解説！ 過活動膀胱（OAB）の診療ストラテジー

企画にあたって

私が本誌編集委員を仰せつかってから、過活動膀胱の特集を企画させていただいたのは2016年「決定版！ 過活動膀胱—All about OAB」, 2020年「これが最新版！ 過活動膀胱のトリセツ」に引き続き、今回で3回目です。

過活動膀胱診療ガイドライン第2版が2015年に刊行されてから、昨年7年ぶりに第3版が刊行されました。287ページにもわたる超大作で、非常に充実した内容になっています。しかしながら、ご多忙の先生方には、本ガイドラインを隅々まで熟読することは難しいかと思います。そんな先生方のために、本ガイドラインの要点をより簡単に、そして見方を若干変えて、本特集を企画させていただきました。まず三井貴彦先生に、過活動膀胱診療ガイドライン改訂第3版のポイントを、アルゴリズムを中心に概説いただきました。過活動膀胱の発症メカニズムについては、基礎研究と臨床研究の観点から、相澤直樹先生と宮里実先生にご執筆いただきました。また過活動膀胱の標準的治療については、藤原敦子先生に総論的にまとめていただき、前立腺肥大症、女性骨盤臓器脱、高齢者、小児、低活動膀胱とターゲットを絞って、秦淳也先生、三輪好生先生、橘田岳也先生、内藤泰行先生、竹澤健太郎先生にそれぞれご執筆いただきました。最後は難治性過活動膀胱です。古田昭先生に難治性過活動膀胱の定義と治療方針について総論的にご執筆いただいたのち、ボツリヌス毒素膀胱壁注入療法と仙骨神経刺激療法について、これらの治療の経験が豊富な舟橋康人先生と鍛田知子先生にご執筆いただきました。

それぞれの内容はとても読み応えがあります。重厚な過活動膀胱診療ガイドラインを熟読する時間がないご多忙の先生には、時間短縮に有用な本特集号をぜひお手にとってご覧いただければ幸いです。

福島県立医科大学医学部
泌尿器科学講座

小島 祥敬